令和7年度から、専攻の区分「口腔保健衛生学」の修得単位の審査の基準を改正します。改正後の審査基準による学位授与と申請の受付は、令和7年度4月期からとなりますので注意してください。

専攻の区分		専攻分野の名称
40 口腔保健衛生学		口腔保健学

口腔保健衛生学とは、生涯にわたって口腔・顎・顔面領域の健康を維持・増進、また機能の回復を図り、人々の健康を支援するための理論や知識、技術に関する学問領域である。口腔保健学にとって保健・医療・福祉の専門分野の理論、知識、技術は関連が深く、これらを修める必要がある。

学士のレベルでは、専門的科目としてA群の5つの区分を含む16単位以上と、実習科目であるB群の「口腔保健学に関する実習科目」を16単位以上学修することが求められる。専門科目のみならず関連科目も幅広く学修することが望ましい。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位（62単位以上）

専攻に係る授業科目の区分	専門科目（40単位以上）	
	【A群（講義・演習科目）】（16単位以上）	左のA群の区分のうちから「口腔保健衛生学概論に関する科目」の区分を含み5区分以上にわたること
	○口腔保健衛生学概論に関する科目 ○臨床歯科医学に関する科目 ○基礎歯科医学に関する科目 ○口腔疾患予防学に関する科目 ○口腔保健指導に関する科目 ○歯科診療補助に関する科目	
	【B群（実習科目）】（16単位以上）	
○口腔保健衛生学に関する実習科目		
	関連科目（4単位以上）	
	◇医学・歯学・薬学に関する科目 ◇保健学に関する科目 ◇看護学に関する科目 ◇社会福祉学に関する科目 ◇医療情報科学に関する科目	

■ 専門科目の例 ■

【A群（講義・演習科目）】

- 口腔保健衛生学概論に関する科目
口腔保健衛生学概論（歯科衛生士概論）、医療倫理学など
- 臨床歯科医学に関する科目
保存修復学、歯内療法学、歯周療法学、歯科補綴学、小児歯科学、矯正歯科学、口腔外科学、歯科麻酔学、歯科放射線学、高齢者歯科学、障害者歯科学など
- 基礎歯科医学に関する科目
口腔解剖学、組織学（口腔組織学を含む）、口腔生理学、口腔生化学、微生物学（口腔微生物学を含む）、病理学（口腔病理学を含む）など
- 口腔疾患予防学に関する科目
口腔疾患予防学、歯科予防処置論、口腔保健管理学、口腔健康統計学など
- 口腔保健指導に関する科目
口腔保健教育学、口腔保健カウンセリング論、学校歯科保健教育論、栄養学、栄養指導論など
- 歯科診療補助に関する科目
歯科診療補助論、臨床口腔保健衛生基礎学、歯科看護学、感染予防学、チーム歯科医療学、臨床検査学、歯科理工学、先端臨床歯科学（口腔外科手術補助、インプラント診療補助、歯周病再生療法補助など）、摂食・嚥下リハビリテーション学など

【B群（実習科目）】

- 口腔保健衛生学に関する実習科目
歯科衛生臨床実習、口腔保健衛生学臨床・臨地実習、地域口腔保健衛生臨地実習、基礎歯科医学に関連する実習（口腔解剖学実習、口腔組織学実習、口腔生化学実習、口腔微生物学実習、口腔病理学実習、歯科理工学実習など）など